

総括質疑並びに一般質問（個人質問）

【質問日】平成26年12月9日（火）

質問 順位	質問者	質問事項
9	福田 俊一郎	<p>1 第2次薩摩川内市総合計画について</p> <p>(1) 合併後、この10年間は市民の一体感の醸成のもと第1次総合計画に取り組んでこられたが、第2次総合計画に臨むに当たっての市長の思いは</p> <p>(2) 市長が在任期間中に優先的に達成させたい施策・事業は</p> <p>(3) 第2次総合計画における施策を事業化する際、原子力発電施設立地地域共生交付金を活用できるものがあるのでは</p> <p>(4) 総合計画は、基本構想・基本計画・実施計画の3層構造としてきたが、第2次総合計画で実施計画を策定しないとされた市長の判断の理由は</p> <p>(5) 実施計画を策定しない場合、中期の事業費を把握できないなどの問題があるのではないか。あるのであれば、その対応は</p> <p>(6) 東京オリンピックを本市の魅力を発信する契機と捉え、上期基本計画に位置付けるべきでは</p> <p>2 平成27年度介護保険制度改正に向けて</p> <p>(1) 医療介護総合確保推進法が本年6月に成立した。医療関係は本年10月から、介護関係は来年4月から施行される。地域包括ケアシステムの構築に向けての体制づくりである在宅医療支援センターの設立状況についての説明を求める。</p> <p>(2) 在宅医療支援センターの今後の取組は</p> <p>(3) 認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン）のもと、認知症ケアパスの作成と普及、また認知症初期集中支援チームの設置及び認知症地域支援推進員の配置が求められているが、進捗状況は</p> <p>(4) 介護保険法で制度的に位置付けられた地域ケア会議は、今後どのように取り組んでいくのか。また、地域資源の開発とは何を意味するのか。</p> <p>(5) 要支援者を対象にした予防給付の訪問介護と通所介護が地域支援事業に段階的に移行する。本市の対応と、将来その受け皿になるであろうNPO、民間企業、住民ボランティアによるサービスの提供の拡充についての考えを示せ。</p> <p>(6) 地域支援事業を始めとする新しい総合事業を継続するために必要な財源についてはどのような考えを持っているのか。</p> <p>(7) 特別養護老人ホームへの入所は、認知症が重度の場合や家族による虐待があるような場合を除き、新規入所者が要介護3以上に限定されるが、その影響と対応は</p>
10	成川 幸太郎	<p>1 空き地・空き家対策について</p> <p>(1) 国の空き家対策特別措置法が成立したが、薩摩川内市の空き家対策条例の今後のスケジュールはどうなっているのか。</p> <p>(2) 今期定例会に上程されなかったのはなぜか。</p> <p>(3) 昨年来、検討がなされ、骨格については作成されていたことと思われるが、何が問題になっているのか。</p> <p>(4) 今期定例会中に上程の可能性はないか。</p> <p>(5) 空き地対策についての現状は、どのようになっているか。</p> <p>(6) 耕作放棄地に対しては、どのような対策があるか。</p>

		<p>(7) 市民農園制度を導入する計画はないか。</p> <p>2 第2次薩摩川内市総合計画基本構想案の策定について</p> <p>(1) 総合計画基本構想案の策定に当たって、一般財団法人電源地域振興センターが作成した「薩摩川内市エリア別将来人口推計に関する調査」の報告書はどのような役割を果たしているのか。</p> <p>(2) 「人口とか税収について目標値は設定できない」とされたが、第1次総合計画において設定された平成27年度の人口目標に対しての検証はどのようにされたのか。</p> <p>(3) 総合計画基本構想案の策定については、将来人口を想定しないとできないと考えるがどのように捉えているか。</p>
1 1	持原 秀行	<p>1 市長の政治姿勢について</p> <p>(1) 景気条項に基づく措置と消費増税先送りへの認識は</p> <p>(2) 消費増税先送りによる本市財政への影響は</p> <p>(3) アベノミクスの効果と本市の地域経済・雇用の動向は</p> <p>(4) 小1の40人学級復活に係る予算削減への対応は</p> <p>2 高齢者福祉施策について</p> <p>(1) ねたきり老人介護手当の支給見直しは</p> <p>(2) 高齢者元気度アップ・ポイントの取組と上限額の増額は</p> <p>(3) 高齢者訪問給食サービスは、民間事業者への移行推進を図るべきではないか。</p> <p>3 川内原発再稼働に関して</p> <p>(1) 県知事の再稼働同意について、市長の見解は</p> <p>(2) 使用済核燃料の最終処分について、市長の見解は</p> <p>(3) 避難道路等インフラの整備について</p> <p>(4) 避難計画・訓練について</p>
1 2	江口 是彦	<p>1 甑島の読み方(呼称)を国土地理院に申請してまで、「こしきしま」から「こしきしま」に訂正しようとしている件について</p> <p>(1) 地名訂正申請書を提出するに至った理由と経緯について</p> <p>(2) 議会や島民への説明は、どのようになされ、どのように考えていたのか。</p> <p>(3) 議決のいかない行政手続の一つとして進めたとのことだが、そのやり方・姿勢に批判の声も上がっている。どのように受け止めているか。</p> <p>(4) 市職員による読み方の取扱いは、内部で統一するものの、市民に対しては強制しないとのことだが、市民・島民への影響は考えられないか。</p> <p>2 甑島の読み方(呼称)に関する教育委員会、学校現場での取組について</p> <p>(1) 地名には、長い歴史や文化がつながっている。教育委員会では、このことをどのように認識され、検証されたのか。</p> <p>(2) 甑島の読み方については、市長部局の考えに追随というよりは、先行して、「こしきしま」の読み方が学校現場に導入されるのではないかと危惧するが、教育委員会の見解を問う。</p> <p>(3) 小学校3・4年生用社会科副読本「のびゆく薩摩川内市」では、平成26～29年度版で、初めて甑島の呼び方(ふりがな)を「こしきしま」としているが、その理由と経緯について問う。</p> <p>(4) 今後、学校現場での甑島の読み方についての取扱いについて、どのような方針で臨まれるのか伺う。</p>